

学会ホームページ <http://jasce.jp>

081号(2025年6月30日)

目次

第21回大会(沖縄)情報
学会ワークショップ 今後の予定
(判明分)
『協同と教育』への投稿募集中
各地の研究会・勉強会

第21回大会(沖縄)情報

5/1より参加および発表のお申し込みを受け付けております。

7/10までの早期参加申込(振込完了)での参加費は会員5000円です。

7/11～9/5の事前参加申込(振込完了)での参加費は会員6000円です。

多くの皆様のお申し込みをお待ちしております。

2025年度の日本協同教育学会第21回大会は、「懐深いやんばるにおける対話と共鳴」をテーマに、2025年9月13日(土)～14日(日)、名桜大学(沖縄県名護市)で開催いたします。

大会では、研究発表(口頭発表・ポスター発表)・ラウンドテーブル・ワークショップを予定しています。教育場面のみならず、さまざまな場面や状況における協同実践・研究を共有していただけますように、楽

しみにしております。多くのみなさまのご参加をお待ちしております！

大会1日目は本学副学長の木村堅一先生をお招きして、「学びを共に創る：学生、教員、ピア・サポートが育む協同教育」をテーマに記念講演を開催いたします。先生は、先輩・後輩の相互支援の活動団体「welcome navigation(通称 ウェルナビ)」を学生と共に立ち上げ、学生との大学づくりに取り組み続けています。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

懐深いやんばるの地に包まれながら、多様な参加者が共鳴しあい、楽しみながら対話するなかで、未来の教育(学び合う場)を創造・想像するような素敵な大会を一緒につくっていただけますように、ぜひぜひお誘い合わせてご参加ください。両手を広げてお待ちしております！

なお、名桜大学近隣は観光スポットが多く、かつ7月末に大規模なテーマパークがオープン予定です。大会日程は、観光シーズン中の週末にあたるため、観光需要の高まりによってホテルやレンタカー等の予約が難しいことが予想されます。どうぞお早めにホテルやレンタカーのご予約をご検討ください。名護市内の移動は公共交通機関もありますが、利便性は高くありません。レンタカーかタクシーをお勧めします。

1. 大会テーマ

「懐深いやんばるにおける対話と共鳴」

2. 大会日程

大会1日目：9月13日(土) 9:00～16:30(受付は8:30開始)

大会2日目：9月14日(日) 9:30～15:30

3. 会場：名桜大学学生会館SAKU RAUM(沖縄県名護市為又1220-1)

4. 会場までのアクセス

【那覇空港から名護市内まで：高速バス利用の場合】

那覇空港到着ロビーを出て左手のバス乗り場にお進みください。

①高速バス(111番・117番)

終点の名護バスターミナルまで、所要時間は約1時間45分です。

②やんばる急行バス(国内線ターミナル1階外の2番乗り場)

詳細はこちら→<https://yanbaru-expressbus.com>

※ご利用にあたっては、各バスの公式サイト等で最新情報をご確認ください。

【名護市内から名桜大学まで】

※夏期休業中につき、学生送迎バスは運行していません。

①名護市内から会場(大学)までの移動は、レンタカーかタクシーが便利です。タクシー利用の場合、名護バスターミナルもしくは名護市役所前からですと、所要時間10～15分で、料金は1,000円程度です。

JASCE

②レンタカーやタクシー利用が困難な場合を想定し、大会初日と2日目の朝、下記のスケジュールで名桜大学までのマイクロバス(両日とも各1便・定員25名・無料)を運行します。完全事前予約制です。大会参加申込フォームに必要事項を記入してお申し込みください。

【9月13日(土)】

7:58発 ルートイン名護(裏通り)
→8:08発 名護市民会館側バス停
→8:13発 ゆがふいん→8:20発
居酒屋 たけちゃん側:旧バス停
(スーパーホテル近く)→8:30着
名桜大学

【9月14日(日)】

8:28発 ルートイン名護(裏通り)
→8:38発 名護市民会館側バス停
→8:43発 ゆがふいん→8:50発
居酒屋 たけちゃん側:旧バス停
(スーパーホテル近く)→9:00着
名桜大学

※定員に達し次第、申込を打ち切ります。

※予約された方は必ずご利用ください。また予約のない方はご利用頂けません。

※バス運行に関するお問い合わせは、北部観光(0980-54-5888)まで。

5. 発表形式

口頭発表(24分) 内訳:発表15分、質疑応答6分、交代3分
ポスター発表(セッション時間 30分)

ラウンドテーブル(120分)

ワークショップ(120分)

6. 発表申込募集期間および発表要旨原稿受付期間

開始日 2025年5月1日(木)

締切日 2025年6月30日(月)

*大会で発表できるのは、令和7(2025)年度までの会費完納者に限ります。

*早期参加申込と参加費の支払いを完了する必要があります。

7. 参加申込と参加費支払い期間

【早期参加申込】2025年5月1日(木)～7月10日(木)※会員のみ

【事前参加申込】2025年7月11日(火)～9月5日(金)

【当日参加申込】2025年9月13日(土)～9月14日(日)

*早期参加と事前参加は振込完了をもって申し込み完了となります。

*発表・企画代表者および共同発表・企画者の皆さまは、必ず早期または事前参加申し込みをおこなってください。当日の受付を円滑に運ぶために、早期参加申し込みと事前参加申し込みでのお支払いにご協力ください。

*大会参加費とその振込口座に

ついては学会ホームページをご確認ください。年会費の振込口座とは異なります。

8. 情報交換会 ～1日目の夜は特別なひとときを～

学会の1日目(9/13)終了後、参加者同士の交流・情報交換を深める「参画型懇親会♪」を名護市内の「ホテルゆがふいんおきなわ」2階で開催します!

詳細については学会ホームページをご覧ください。

9. 第21回大会に関する問合せ先 日本協同教育学会第21回大会実行委員会

〒905-8585 沖縄県名護市為又1220-1 名桜大学 平上久美子 研究室内

E-mail: taikai @ jasce.jp (@の前後の半角スペースを取り除いてください)

お問い合わせはE-mailでお願い

学会ワークショップ 今後の予定(判明分)

<ベーシック>

11月15日(土)、16日(日)【主催】

会場:大阪医科薬科大学(大阪府高槻市)

講師:小松誠和・安永 悟

<ベーシック>

2026年3月7日(土)、8日(日)【主催】

会場:創価大学(東京都八王子市)

講師:久末俊幸・関田一彦

<アドバンス>

2026年3月7日(土)、8日(日)【主催】

会場:創価大学(東京都八王子市)

講師:久保田秀明

最新情報、詳細情報、参加のお申し込みは学会HP (<https://jasce.jp/1031workshop.php>)からお願いいたします。

JASCE

致します。

件名に「日本協同教育学会第21回大会」の文言を入れてください。

第21回大会実行委員長 平上久美子

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています(次号は第21号です)。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

各地の研究会・勉強会

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇第58回「協同学習を用いた看護教育研究会」を、5月24日(土) 13時30分～17時30分、グランフロント大阪ナレッジキャピタル「The Lab」アクティブスタジオで開催しました。今回は創価大学副学長の関田一彦先生をお迎えし、初参加の方を含め30名の方が、東京、静岡、富山、愛知、三重、京都、岡山、大阪から集われました。

看護教育では、講義・演習・臨床実習の多くの場面においてグループでの学習活動が伴います。有益なグループ活動には様々な要素が必要ですが、その中で特に重要な要素として捉えているのが多様な仲間との「協同」です。そこで今回は「グループ活動と協同」をテーマに、参加者とのディスカッション、関田先生の講義を通して有益なグループ活動に必要な協同を促進する取り

組みについて学び、今後の実践に活かすことを目的に開催しました。

アイスブレイクの後、参加者の1.グループ編成の視点、2.協同できるグループ活動のために取り組んでいる工夫、3.解決したい困りごと、についてグループでディスカッションし、その内容を特派員の技法を使って全体で共有しました。その後、関田一彦先生からお講義を受け、グループ編成の仕方・考え方、人間の相互関係にある思考と行動の3類型(Taker・Matcher・Giver)について、ABCモデルを使った仮説、ジョンソンが挙げる協同学習の構成要件、グループの改善手続き、などについて学び、全体での質疑応答、グループ活動を振り返ってのコンプリメントを行いました。

事後アンケートでは、参加者から以下のような声が寄せられました。
・グループ編成時の視点・工夫点を切り口に様々な視点から意見交換ができ、たくさんのアイデアが得られた。
・有益なグループ活動になるために協同をどう育むかを考える時に、教員の大きな悩みの種が「フリーライダー」への対処法、であることがディスカッションで抽出されていたが、関田先生の講義を通してそれを解決する協同教育の可能性を一層強く確信できた。
・協同学習の構成要件(条件)を満た

すグループ活動を周到に仕掛けていく授業の構造化の大切さを再確認できた。

・フリーライダー学生やフリーライダーに対する不満を持った学生への関りに対する解決策を求めているが、関田先生のお講義の「ABCモデルを使った仮説」をお聞きして、協同学習の構成要件を整えることでMatcherの特性を活かすことができ、フリーライダーの存在を減らせるという図式が理解でき、自身の授業構造を再度見直そうと思った。同時に、フリーライダーの存在は、学生たちにとって社会に出てからの対人関係スキルを磨くチャンスになり得るという捉え方も再確認でき、改めて協同学習を通して広い視野で長期的な視点で学生達を育てていきたいと思った。

・Taker対策や方法ばかりに目を向けていたと振り返ることができた。協同学習の構成要件をおさえ、Matcherを巻き込んでいけるような授業・演習の組み立てをしていきたい。

・初めて担当する科目のグループ活動(演習)をどのように組み立て実施するか悩んでいたが、研究会に参加することは自分がもっている知識のブラッシュアップや新しい知識が得られる機会で、とてもうれしかった。体験を通して深い学びができたことは自身が身をもって教育実践に



JASCE

活かすことができる。

終了後の懇親会にも20名の方が参加されました。今後もよりよい企画運営に努め、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(文責：緒方巧)

◇【今後の開催予定】第59回は8月23日(土)、第60回は11月8日(土)、13時30分～17時30分、場所はグランフロント大阪アクティブスタジオです。

連絡先：研究会代表 緒方 巧
(t-ogata@baika.ac.jp)

(愛知地域)

藤田医科大学看図アプローチ研究会

◇「ふじかん」第21回研究会(6機関連携)報告

「ふじかん」は、「藤田医科大学看図アプローチ研究会」の略称であり、現在は多機関と連携して活動を行っています。今回は、対面参加8名(教員6名、大学生1名、企業1名)、Web参加4名(教員3名、大学職員1名)を含む計12名が参加し、ハイブリッド形式で開催しました。

前半では、看図アプローチの理論を学び合い、後半では看図アプローチを体験しました。

★活動の様子★

初参加は2名で、うち1人は入学間もない1年生でした。看図アプローチに関心をもち、自ら希望して参加。教員たちの対話に交じって堂々と意見を述べ、積極的に関わる姿が印象的でした。その姿勢に参加者一同が感心し、誰もが認める「ふじかんのルーキー」として新たな風を吹き込んでくれました。

1. 看図アプローチの理論の学び合い

テキスト『見方・考え方を育てる授業デザイン—看図アプローチの理論と実践—』第4章「看図アプローチとは」の内容をLTD話し合い学習法に沿って学び合いました。

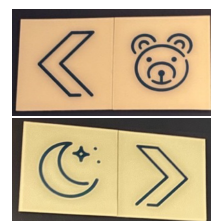
看図アプローチのステップ「変換・要素関連づけ・外挿」について話し合う中で、とくに「要素関連づけ」が難しいという声が多く聞かれました。「要素関連づけと外挿の区別が難しい」「要素関連づけの“こと”の読み解きが曖昧だと、外挿がぶれてしまう」といった意見も出ました。そのため、「問いを通して何を見て、どう読み解くか」といった問いの立て方の重要性が、改めて話題になりました。対話を通して理解を深め、「問い」の立て方や学びの進め方を考える機会となりました。

また、別のグループでは「自主的に学ぶ」にフォーカスして議論が行われました。ある高校の英語授業の1例として、「英語を用いて学ぶ」というテーマで、1か月で生徒が各自成果物を作成することが紹介されました。英語で4コマ漫画を描いた生徒もいれば、英語ドリルをこなした生徒も。大きなテーマを与えて、学

生がその個性を生かして1か月で何を修得するのか、自分なりにやりたいことを見つける授業だそうです。自分でテーマを見つけられる生徒はその自由意思を尊重すればいいですが、そうでない生徒はどうするか。「自主的に学ぶ」とは、自ら課題を見つけて、その解決や完遂に向けて何をどう進めていくかを考えること。それを生徒が自ら行なえるよう、教員はいかに支援するか。自身の経験を交えて活発に話し合いました。

2. 看図アプローチ体験

朝居先生がマレーシアのホテルで撮影した2枚の写真(写真)をもとに、看図アプローチを実践しました。



【変換】では、「月」「クマ」「星」「く」「ブーメラン」「段ボール紙2枚」など、“もの”を自由に挙げながら、視点を広げました。

【要素関連づけ】では、「どのように設置されていますか」といった問いを通して、「黒い背景の上に紙が置かれている」「動物園の案内として貼ってある」「写真が斜めに撮ら



JASCE

れているのか、実際に斜めなのか」「保育園にあるのでは」「それぞれの絵の線がつながっていないので切り絵になっている」「クマのマークと対になっている」など、配置・素材・空間に注目した意見が、理由を添えて交わされました。

【外挿】では、ホテルという場から「星や月が見えやすい展望台」の発想が生まれ、さらに「月と星＝礼拝室(空港にも礼拝室がある)」「クマ＝キッズルーム」「静と動の空間を分けている」といった意見が出されました。そこから、イスラム教徒が多いマレーシアの背景をふまえて「礼拝室を示す案内と礼拝中に子どもが過ごす部屋の案内ではないか」という推論(実はこれが正解)へ収束していきました。

このような外挿に至ったのは、「要素関連づけ」における問いかけと読み解きにありました。「絵がどのように設置されているか」という問いから、様々な視点で意見が交わされ、「どんな場面が考えられるか」へと発想が広がっていきました。問いと対話を通じて見方が深まり、絵の意味をより深く考えることができました。このような学びが看図アプローチが意図するものだとして、改めて実感しました。

(文責：織田千賀子・朝居朋子)

連絡先：全国看図アプローチ研究会事務局 (kanzu.approach.office@gmail.com)

(中四国地域)

協同学習研究会(岡山)

◇第1回の研究会を5月24日(土)にオンラインにて開催しました。土曜10時～12時の開催にも関わら

ず、20名を超える参加を頂きました。ありがとうございました。

今年度は、本学会の前副会長である石田裕久先生が訳してくださったJohnson,D.W&Johnson,R.Tの『協同学習を支えるアセスメントと評価』をテキストに、毎回1章ずつを参加者の皆様と読み解くフラットな研究会として進めています。確かな評価観を持つことは、その授業実践の着地点を明確に把握することに繋がります。その着地点から授業を構想することは、教師の学習者理解の軸を与えるとともに、教師自身の授業実践を振り返らせ、改善に繋がる示唆を与えてくれるのです。

参加希望の方は高旗 (takahata@okayama-u.ac.jp) までお知らせください。出入り自由です。テキストを事前に読んでおくことが参加の条件です。第2回は7月26日(土)10時～12時で第2章を読みます。第3回以降は10月18日、12月20日、2月28日(いずれも土曜10時～12時)にオンラインにて開催します。テキストはAmazon経由での入手が便利です。



(全地域)

長崎県央看護学校第25回看図アプローチ研究会

看図アプローチと創造性の育成
ー創造は無関係の関係から始まるー
◇看図アプローチは「見ること」を重視した授業デザインの方法です。「見ること」を起点にすると、話すこと・聞くこと・書くこと・読むことが相互に結びついた学習活動が生まれてきます。看図アプローチは、主体的・対話的で深い学びを引き出す効果的な方法です。

看護学校での開催ですが、小中高の授業づくりにも応用できる方法を提供していきます。

■開催日／2025年8月20日(水)

■開催時間／10時～16時

■会場／長崎県央看護学校 長崎県諫早市永昌町23番23号

■開催内容

(1)看図アプローチの学び直し
ー協同と創造のワークショップー
鹿内信善先生

(2)看図アプローチの実践 ー無関係からの創造ー 長崎県央看護学校教員

■参加費／無料 (QRコードから事前申込をお願い致します)

■参加申込締め切り／2025年8月8日(金)

■連絡先・問い合わせ／TEL0957-25-3232 長崎県央看護学校 田中伸子先生

または全国看図アプローチ研究会事務局 kanzu-mail@kanzu-approach.com

